



R4.4月の桜と校舎



前号でお伝えした、あいさつの続編です。



私は、玄関でのあいさつを終えると、その足で各教室へ向かい、今一度あいさつに回ります。目的はいくつかあるのですが、一番の目的は、元気を注入するためです。昨年から1年間こんなことを繰り返していると、今では逆に私の方が元気をもらうほどになりました。同時に、子どもたちに**変化**も現れてきました。実に、微笑ましい姿なのでご紹介します。

<変化①>

私が教室に入るや否や、間髪入れずに元気にあいさつしてくれる子どもたちがいます。中にはドア付近で待ち構えていて、こちらが仰け反ってしまうほどの元気な声であいさつしてくれる子どもがいます。これまでは、あいさつされたらあいさつを返す形がほとんどでしたが、玄関でのあいさつを含め、子どもたちからあいさつしてくれる姿が、あちらこちらに生まれてきました。

<変化②>

「あいさつ隊(私が勝手に命名)」が結成されました。あいさつを終え、次の教室に向かうと、いつの間にか私の後ろに数名の子が連なり、次の教室で一緒にあいさつしてくれるのです。今では、「さあ行こう」と声を掛け合い、隣のクラスにこぞって出向きます。自主的に行動する**5年生**の頼もしい面々です。

<変化③>

とても丁寧なあいさつをしてくれる**1年生**。心を込めて、笑顔であいさつする姿は、とても立派です。「おはようございます」「さようなら」の一言を大切に発し、あいさつされる側の私も、思わず深々と頭を下げしてしまうほどです。

習慣化された家庭でのあいさつ、そして、担任とのあいさつの賜物だと感じます。やはり、手本となるのは身近な大人なのでですね。

<変化④>

玄関で、時折子どもたちからこんな言葉を掛けられることがあります。

「校長先生、今日も教室に来てくれますか？」と。何ともありがたいお誘いです。その子の期待に応えるべく、ウキウキしながら教室を訪問します。あいさつが取り持つ縁、まさに「あいさつは心と心を結ぶ魔法の言葉」です。

これらはほんの一部ですが、^{まぎ}紛れもなく「北小の変化」「北小のいいところ」なのです。玄関ではあいさつが少なくても、子どもたちのホームグラウンドである教室では、こんなにも輝く姿があることは、何ものにも替え難い「北小の宝」です。今後も、あいさつを通して心と心を結び、笑顔あふれる北小の実現に向けて、教職員一同頑張っていきます。

「たかがあいさつ
されどあいさつ」



～ 夏至 (げし) ～

梅雨まっただ中、うっとうしい日が続くこの時期ですが、暦の上では、明日 21 日に「夏至」を迎えます。

「夏至」は、ご存じのとおり、1 年のうちで 1 番昼の時間が長い日です。およそ 14 時間半の昼の長さがあります。しかし、実は、これは北半球の話であって、南半球ではその逆で、最も昼の時間が短い日となります。同じ地球でも、何とも不思議な話ですね。また、日本の位置する北半球でも緯度によってそれは変わり、同じ夏至でも、沖縄と北海道ではなんと 2 時間も昼の長さに違いがあります。この時期、北に行くほど昼は長くなり、北極圏では、いわゆる「白夜 (1 日中昼の状態)」になります。

一口に「昼の長さ」といっても、夏至と冬至の違い、北と南の違い、緯度による違いと「違い」はたくさんありそうです。夏至を機に、「昼の長さ」を感じてみるのもいいかもしれませんね。



コロナによる制約もだいぶ緩和されてきましたが、まだまだ子どもたちの学校での様子をご覧いただくことは途絶えがちです。学校ホームページをできる限り更新していますので、ご覧いただければ幸いです。検索は「竜王北小学校」で。

…学校の風景…



昔は黒一色だった「長靴」。時は流れ、今は、色とりどりの「レインブーツ」へと進化。雨の日の楽しみが増えました。

人権の花の種をバルーンに付けて飛ばしました。何と、6年生が修学旅行で訪問した川崎のJFE東日本製鉄所から、飛来の連絡がありました。まさに**奇跡です!**



今年初めての授業参観。たくさんの保護者の方に来校していただきました。コロナ禍でも学校行事は止めません。

クラブ活動が始まりました。12のクラブに分かれ、共通の興味・関心を持つ仲間たちと、思い思いに楽しんでいます。



◎北小の森の住人が、いつの間にか**ウグイス**から**カッコウ**に替わりました。ウグイスとは違う**心地よいさえずり**に心が和みます。季節の移り変わりを、小鳥のさえずりから感じる今日この頃です。

